週刊日本株レポート（8/14～8/18）

～ 決算が一巡し夏季休暇シーズン入りする中で、経済指標を確認しつつ横ばい圏で推移 ～

2023年8月14日作成

1. 日米株式と円／ドルの推移

＜日本株（日経平均）＞

＜米国株（NYダウ）＞

＜円/ドル＞

（注）チャートは過去1年

	単位	2022/12/31	2023/7/31	2023/8/10	過去3年高値		過去3年安値	
		（前年末）	（前月末）	（前週末）	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	26,094.50	33,172.22	32,473.65	33,772.89	2023/6/19	22,497.07	2020/8/11
NYダウ	ドル	33,147.25	35,559.53	35,176.15	36,952.65	2022/1/5	26,143.77	2020/10/30
円/ドル	円	131.12	142.29	144.75	151.95	2022/10/21	102.59	2021/1/6

過去3年高値・安値はザラ場ベース ／ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場　先週の振り返り

～ 為替の円安ドル高進行や堅調な4-6月期決算を受けて上昇 ～

先週の日本株市場は、日経平均が+280.90円（+0.87%）、TOPIXが+28.88ポイント（+1.27%）となり、為替の円安ドル高進行や堅調な4-6月期決算を受けて上昇しました。業種別でみると、鉱業、石油・石炭製品、不動産業などの27業種が上昇した一方、精密機器、銀行業、電気機器などの6業種が下落しました。
週前半7-8日は、7日朝方に発表された日銀金融政策決定会合の主な意見（7月27・28日開催分）で「マイナス金利政策の修正にはなお大きな距離がある」との発言があったことなどを背景に為替が円安ドル高に振れたことや、堅調な4-6月期決算が続く中で企業業績に対する安心感が広がったことなどから上昇しました。9日は、格付け会社ムーディーズが米国の中・小規模銀行10行の格付けを引き下げた他、一部の米大手行を引き下げ方向での見直し対象としたことを受けて前日の米国株市場が下落したことや、決算内容の不振から一部値がさ株が売られたことなどから反落しましたが、週末10日は、一時144円台まで円安ドル高が進行したことや、中国政府が日本への団体旅行を解禁したことによるインバウンド需要への期待などから再び上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
8月15日	Tue	日本	GDP（国内総生産）速報値（前期比年率）	4-6月期	+2.7%
		中国	鉱工業生産（年初来/前年比）	7月	+3.8%
			小売売上高（年初来/前年比）	7月	+8.2%
		ドイツ	ZEW期待指数	8月	▲14.7
		米国	小売売上高（除自動車）（前月比）	7月	+0.2%
			ニューヨーク連銀製造業景気指数	8月	1.1
8月16日	Wed	欧州	ユーロ圏鉱工業生産（前月比）	6月	+0.2%
		米国	住宅着工件数	7月	1,434千件
			鉱工業生産（前月比）	7月	▲0.5%
			FOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨公表	7月25・26日分	
8月17日	Thu	日本	貿易収支	7月	+431億円
			第3次産業活動指数（前月比）	6月	+1.2%
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	8月	▲13.5
8月18日	Fri	日本	CPI（全国消費者物価指数）（除生鮮/前年比）	7月	+3.3%
		国際	日米韓首脳会談（米キャンプデービット）		

決算発表予定　他	国内	決算発表　：	8/14 朝日ｲﾝﾃ、凸版印刷、電通G、光通信 8/16 ﾊﾟﾝﾊﾟｼﾌ
	海外	決算発表　：	8/14 鴻海精密工業 8/15 ﾎｰﾑ･ﾃﾞﾎﾟ 8/16 ﾃﾝｾﾝﾄ･ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ、JDﾄﾞｯﾄｺﾑ、ｼｽｺｼｽﾃﾑｽﾞ 8/17 ｳｫﾙﾏｰﾄ、ｱﾌﾟﾗｲﾄﾞ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場　今週の見通し

～ 決算が一巡し夏季休暇シーズン入りする中で、経済指標を確認しつつ横ばい圏で推移 ～

今週の日本株市場は、決算が一巡し夏季休暇シーズン入りする中で、経済指標を確認しつつ横ばい圏で推移するとみます。
先週までに国内企業の4-6月期決算発表は一巡しましたが、総じて市場予想をやや上回る内容であったことや、23年度の会社計画についても上方修正する企業がやや優勢であったことから、当面は企業業績に対する安心感が株価のプラスに働くとみます。また、15日に発表される日本のGDP成長率がインバウンド消費の増加などから堅調な内容となれば、中国政府による団体旅行の解禁と相俟ってコロナ禍以降主要国から出遅れていた日本経済に対する期待が高まるとみます。また、15日に発表される米国の小売売上高について、底堅い内容となれば米景気に対する安心感が一段と高まるとみています。一方、同日に発表される中国7月の月次統計については、足元で中国景気の回復の鈍さが意識される中で市場予想を下回る弱い内容となれば、株価の重しに働く可能性があり注意が必要とみています。今週前半は、お盆（8/13-8/16）の夏季休暇シーズンに当たるため国内投資家の積極的な売買は見送られると思われ、これらの各国の経済指標に左右されつつ横ばい圏で推移するとみています。その他の注目材料として、日本では17日の貿易収支、18日のCPI、米国では16日の住宅着工件数、鉱工業生産、欧州では16日の鉱工業生産、ドイツでは15日のZEW期待指数、国際では18日の日米韓首脳会談などが挙げられます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL：https://www.alamco.co.jp

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第301号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント（以下、「当社」といいます。）が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。